

## 第2回 多古町総合振興審議会・多古町総合戦略推進会議 会議録概要

開催日：令和元年10月28日（月）

会 場：多古町役場 第4会議室

時 間：午前10時～

### 1. 開会

### 2. 会長あいさつ

### 3. 議事

- (1) 次期総合戦略人口推計について
- (2) 第1期総合戦略の評価と次期計画の構成案について
- (3) 次期総合計画の計画期間について
- (4) 町民ワークショップの開催について

資料に沿って事務局より説明を行った。資料や説明に関する委員からの意見は以下の通り。

(会 長)：目標を立てることが今後の手立てを考える第1段階であるので、合計特殊出生率を増加させること、若い女性人口を増やすことを、まずは目標とするとのこと。数字が多い資料となり恐縮だが、なにか質問はありますか。

今回の資料で人口については国勢調査をもとにしたデータを用いているとのことだが、多古町としては国勢調査と住民基本台帳で人口はどちらが多いのか。

(事務局)：住民基本台帳の方が多くなっている。

(会 長)：国勢調査は住んでいる人への調査、住民基本台帳はその土地に住民票のある人への調査。町の人口についてみていくなら、国勢調査を用いる方が実態に近いということで、総合計画や、総合戦略といった計画では国勢調査を用いる。住民基本台帳は、住民票はその土地にあったとしても、進学や就職で外に出ている人もいるので実態と異なる。

(委員A)：外国人を人口に含めるようになったのは何年前だったか正確には覚えていないが、そのタイミングで人口としては増えているだろうと思う。

(会 長)：今回の数値は外国人を含めた数か。

(事務局)：外国人を含む人口となっている。平成30年が転入超過となっているのも、外国人動向の影響があるだろう。外国人労働者は定期的に入れ替えがあるので、その部分で転入・転出の動きが出る。

(会 長)：社人研(※1)による推計は、各地域で行われている人口減少に対する手立ては踏まえられていない。現在の人口について国勢調査のデータをもとにした推移についてみると、減少傾向であることには変わりはないが、社人研の予測よりは減っていないという状況。そういった状況の中、今後、この人口問題に対してどう対応していくかについて、委員の皆様と議論していただきたいと思っている。また、ワークショップにおいても住民の皆様と意見をいただきたいと考えている。

人口推計について他に質問等ないようであれば、(2)の議題の方につりたいと思う。ここでは第1期計画の評価の部分と次期計画について、意見をいただきたい。基本目標の4本柱についてはこれまで同様に進めていきたいと事務局より提案が出ているが、委員の皆様としてのご意見はいかがか。この資料をみると、KPI(※2)の評価が高いのに、数値目標の評価は低いという項目がみられる。KPIと数値目標の間に、相関関係がみられない指標設定となってしまうのかな、という見方もできると思う。前回策定時にKPIという考え方が初めて出てきたということもあり、そういった部分まで検討が難しかった部分もあるだろう。今回はそういった部分も検討して行ってほしい。

(事務局)：第1期計画では、目標として掲げた数値として、統計調査を用いて値を示すものが多かった。例えば、基本目標1の「従業者数」は経済センサスを用いたデータなのだが、この調査は5年に一度の実施で、動きがみづらい。そういった部分もあり評価がしにくいということも、相関がみえづらくなっている要因の1つであると思う。

(会長)：KPIの方が取り組みとしての結果が明確に出ているのでわかりやすくなっている。具体的に実施したことへの評価としてKPIがある。しかし、数値目標となると総合的評価になるので、難しい。まずはKPIでC評価となっている項目を、今後はもっとしっかりと取り組んでいくべきと思う。KPIや取組に対して各委員からご意見いただきたいと思う。

(委員B)：子育てに関する部分でいうと、待機児童数もゼロとなっているなど、評価も良く、子育てするには良いまちだと思うし、そういった取り組みをしていただいていると思う。しかし、評価として良かったので、ここで取り組みとしては打ち止めとするのではなく、今後も今の状態を維持していくことが大事だと思う。目標達成で満足、ではなく、今後も良い評価を維持するための取り組みを進めて行ってほしい。

(委員C)：道の駅に関して、川沿いを散歩されている人はみかけるが、道の駅に入っていく人となるとあまりみかけない。道の駅として目玉となるようなものがあると集客としても良いと思う。

(会長)：基本目標1の部分とも関連してくる部分かと思うが、多古町で作ったものを道の駅で売るといった連携ができれば良いと思う。

(委員D)：KPIになっている町ホームページアクセス数が少ないなという感想を持った。町のホームページアクセス数が伸びると、道の駅のホームページアクセス数も伸びるのではないだろうか。もっとアクセスしやすいホームページにしたり、動画のUPも定期的に行ったり、動画や内容を変える等の工夫があると良いと思う。1度の訪問で最後になってしまう、飽きてしまうホームページではいけないと思う。

(会長)：アクセスしやすく、という部分で、町のホームページにスマホ版はあるのか。

(事務局)：スマホ版も開設している。またこのKPIに関して、アクセス数として減っているのには、少し訳がある。数年前に、町としてネットワークの強靱化に取り組み、アクセス数の数え方等を変更したため、これまでのカウントと比べ数が減ってしまった。これがアクセス数として減っている理由。アクセス数として、ホームページの充実等を行い、今後も伸ばしていきたいと考えている。

(会長)：計測方法が変わったことで数は減っているかもしれないが、ネットワークの強靱化は大変重要な取組。今後のアクセス数の動きに注目したいと思う。

(委員E)：基本目標1の農業や農産物のといった部分を、もう少し強く取り組んでいけると、基本目標3の評価が上がるのではないか。多古町農産物のブランド化等も必要だと考える。多古町

はお米も有名だが、ヤマトイモも生産量としては多い。全国ではあまり栽培されていない作物であるヤマトイモをもっと押し進めれば、多古町の独自の取組にできるのではないかと。

(委員F) : 多古高校では町内から通う生徒は3~4割で、町外から通う生徒が多いという実情。そういった部分も含めて、町民以外の人をどう取り込むかが重要だと思う。現在、教育課程を新しくしており、令和4年度から実施の予定。今は、教育課程としての時間割「以外」の部分、部活動等の課外活動の部分で人を呼んでいる。ブラスバンドや野球といった部分。しかし教育課程としての時間割の「中」の部分でも人を呼べるようにしないといけないと思う。時間割の中での教育内容、そういった部分で地域との連携・協力を図っていけると、教育としても充実していけるのではないかと。

(委員G) : 全体としてKPIの評価は高いと感じた。農業に関する項目も評価が高く、シャトルバスの利用者数も、イベントへの集客数も多いと感じた。金融機関としての意見で、住宅取得奨励金交付世帯数と分譲済区画数とのリンクについて少し疑問を感じた。分譲数の方が交付世帯数を上回っており、分譲したが住んでいない方がいるのか、と思った。また、勤め人としての意見で、近隣都市、例えば成田へのアクセスの良さ、交通の利便性をもっとよくなると良いと思う。また、雇用への支援も充実していけると、交通の利便性と相まって、外部からの転入も増えてくるだろう。

(委員H) : 基本目標4についての数値目標として、評価は下がっているが、高齢者の人口も増えているから如何ともし難いな、という印象。ボランティア団体数としても妥当な数字であると思うし、町内においても様々なボランティア活動がなされている。そういった部分は多古町として評価すべき部分だと思う。高齢者の体操等健康のための取り組みは、地道な部分もあるが今後も続けていってほしい。

(委員I) : 多古町において少子高齢化が進んでいるのは確かだが、介護認定率は県下でも低いのではなかったかと記憶している。多古町は元気な高齢者が多い。農業等で高齢になっても働く方が多いことが要因のひとつであると思うが、さらに、介護予防サロンの取り組みもそういった元気な高齢者が多い要因なのではないか。介護予防サロンは多古町の9地区において開催しており、参加者数としても多い。また、ボランティアによって開催されていることもとても魅力的。そういったボランティアに対する持続性のある活動を支援するための取り組みがあれば良い。福祉の分野としては、人材確保は最重要。移住促進と同時に福祉人材の確保も重要視してほしい。

(会長) : シルバーセンター登録者数も評価としては下がっているが、多古町ではシルバー人材センターに行く以前に、働いている人が多いのだろうと今の意見から感じた。元気に働くことは健康に生きていくためには大切な部分でもある。

(委員J) : Webマーケティングといった部分に携わっている身として意見をいわせていただくと、ホームページのアクセス数は、最近指標には入れていないことが多い。それよりもリピート率、滞在時間、外部ページからのアクセス数を指標にすることの方が多い。そういった指標を伸ばしていくためには、まずはホームページの満足度を上げることが大切である。道の駅の売り上げについても評価は低くなっているが、道の駅単体での売り上げ増加となると難しい部分もあると思う。そこで、遊歩道と連携した、「エリアでの整備」を進めていけると良いのではないかと。道の駅からあじさい橋へ行って引き返すというルートを通る人が多いので、ぐるっとまわってみられるような観光の道があると良いと思う。

地域協力隊といったまちの取組に高校生の参加を促すようなまちもある。多古町は高校生を巻き込むようなものがない。町への愛着はあるけど、出ていってしまう、というのではいけない。高校生がまちを出ていかないための取組みが大切だと思う。

(委員A) : K P I の評価によって、交付金として入ってくる金額は変動するのか。

(事務局) : 交付金事業の評価が悪かったからといって金額が減ることはない。効果・結果が出なかった際は、なぜかという要因の検証が必要となってくる。

(委員A) : 今後交付金事業として、そういった部分がシビアになっていく可能性もある。数値目標と K P I の関連も重要視していくべき。また、空港整備の関連で、人口として減るリスクがあると思うが、そういった部分もしっかりと考えていくべき。

(事務局) : 今回の議論部分は人口が中心となっているので、空港整備の詳細については触れていないが、総合計画を中心に、総合戦略も含め、検討していくべき部分であるとは認識している。

(委員A) : 空港の整備によって、人口としてはかなりマイナスになるのでは、と考えている。騒音の大きい場所に住みたい人は少ないだろう。今後検討して盛り込んでいけない部分であると思う。

(事務局) : 人口の推計については、外部要因については入れていない。しかし、今後検討していく取組内容の部分では、検討していく予定。また、総合計画としても盛り込んでいくことを考えている。騒音問題・敷地の移転に関する問題もある。飛行機が実際に飛ぶのはまだ先だが、住宅の場所を移動する方もいるため、人口が減るファクターもありえる。しかし、2024年の圏央道の開通で高速のインターが多古町にできるという動きもあり、そういったことが人口が増加する要因となる部分もあると考えている。プラス、マイナス、様々な要因を踏まえながら、K P I の設定等、もう一度見直しを進めている。委員の皆様にもご意見いただければと思う。

(会 長) : 光と影、外部要因と内部要因どちらも考えないといけない。良いところばかりに目が行ってしまうのもわかるが、マイナスの面もしっかりとみてほしい。また、住宅の問題については、都市計画の話にも直結する。見直しをしている都市計画マスタープランとも連携してほしい。

(委員K) : 数値目標と K P I について相関関係がとれていないとのこと、今後しっかりと見直していきたい。また、基本目標 4 の数値目標である後期高齢者の医療費の増加を抑えるための K P I として、体育館の利用者数があるが、体育館を利用するのは高齢者だけではない。K P I の設定方法を再度検討する必要があると感じた。数値目標も医療費にするのではなく、「元気に活動している高齢者の数」を目標にした方がわかりやすかったかもしれない。数値目標自体の見直しも検討した方が良いのではないかと考えている。分譲済区画数についても、空港の整備の関連で転出してしまう方がいるかもしれないが、圏央道の開通で増える人口のために、新たに住める場所の整備を考えて、こういった機会を逃さないようにしたい。

(会 長) : 数値目標や K P I については、本日いただいた意見をもとに今後修正、検討を進めていくとする。基本目標については、変更するべきといった意見は出ていないが、基本目標の 4 本柱については踏襲し、今後も継承していくことで委員の皆様としては問題ないか。

(全委員) : 異議なし。

(会 長) : それでは、基本目標の 4 本柱は継承するということで、数値目標・K P I 等は今後事務局の方で検討を進めてほしい。また、今回策定する総合戦略について「関係人口」という

考え方を重要視すべきと考えている。関係人口とは多古町外に住む、多古町と何らかの関わりを持っている人のことで、道の駅に訪れる方、町や道の駅のホームページを見る方、外部から町内の学校に通う生徒、地域おこし協力隊等、町に関係してくれている人口のことをいう。多古の魅力を発信して、多古町の良さを知ってもらい、関係人口になってもらい関係人口を増やす。そういった多古版の関係人口を検討していくことは、今回策定する総合戦略の大きなテーマとしたい。

### (3) 次期総合計画の計画期間について

資料に沿って事務局より説明を行った。資料や説明に関する委員からの意見は以下の通り。

(会 長)：総合計画を9年とし、2024年の圏央道開通に向け、後期計画をそのタイミングで見直しということで、前回の会議でも話させていただいたが、委員の皆様としてもこの計画期間で策定を進めて良いか。

(全委員)：意義なし

### (4) 町民ワークショップの開催について

資料に沿って事務局より説明を行った。資料や説明に関する委員からの意見は以下の通り。

(会 長)：ワークショップとしては毎回違うメンバーが集まるのか。

(事務局)：同じメンバーでの開催を考えている。アンケートで募集した方以外にも若手職員・高校生も参加の予定。

(会 長)：かしこまった感じでなく、意見の出やすいワークショップにしていきたいと思う。

### (5) その他

(事務局)：アンケートについて、回答期間を1か月延長させていただいた。2000通のうち回収票が796通、39.8%の回収率となった。前回策定時の5年前のアンケートは775通回収。また、前回会議で他のアンケートの回収率についてご質問があったので、ここで回答させていただくと、健康づくり推進計画のためのアンケートは15歳以上1,800人対象の配布で732票回収、40.7%の回収率。子どものアンケートや高齢者のアンケートは対象者が限られるので、回収率としては6割程度と高くなっているが、広い年齢層に対するアンケートで無作為抽出となると4割くらいの回収率となっている。また、アンケート期間の延長により、本日報告できなかったアンケートの内容については、今後郵送での報告も検討中なので、その際はまたご確認等ご協力をお願いしたいと思う。

## 4. その他

(事務局)：次回会議を2月と伝えていましたが、今回は12月25日の午後に変更をお願いしたい。次の会議で次期総合戦略案について委員の皆様にご意見をいただいて、その後、パブリックコメントにかけるというスケジュールとしたいと思う。

## 5. 閉会

以上

※1 社人研…国立社会保障・人口問題研究所の略称      ※2 K P I…重要業績評価指標